

「お父さんみたいに」

古家 若葉

私は中学一年生です。中学生になったのをきっかけに親と話すきかいが減ってきました。私のお母さんの仕事は歯科衛生士なのですが、お父さんは工場で働いています。そんな私はお母さんの仕事は自慢していましたが「お父さんの仕事何。」と聞かれるとはずかしくて言えませんでした。友達のお父さんは医師や駅員さんなどかっこいい仕事なのですが「私のお父さんは・・・。」そう思っていました。ある日、トイレに行きたくなって下へ降りるとペンの音が聞こえたのでそっとドアを開けてみるとお父さんが必死に勉強をしていました。次の日、あのことが不思議でお母さんに聞いてみるとクレーンの資格をとろうとしてるんだよと教えてくれました。その資格はとても難しいらしいのですがお父さんは合格しました。家族でお出かけに行っても工事現場を見ると、ビルほどの大きなクレーンを指差して、「このクレーンを動かせるんだよ。」と自慢げに教えてくれました。それから、私はお父さんのような人の役に立って喜んでもらえる仕事につきたいと思うようになってきました。それと、いつもボロボロの作業着で帰ってくるお父さんに大きな声で「おかえり。」と言ってあげたいです。